

平成30年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

事業実施報告書

- I スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び
- II マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成
- III スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築
- IV 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成
- V スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成

道府県・政令市名【宮城県】

1 実践テーマ	【II, III, V】
2 実施対象者	気仙沼市立松岩小学校 第1学年 62名, 第2学年 54名 第3学年 65名, 第4学年 47名 第5学年 65名, 第6学年 36名
3 展開の形式	(1) 学校における活動 ① 教科名 (道徳, 体育, 生活, 総合的な学習の時間) ② 行事名 () ③ その他 (夏季休業中, 業間活動) (2) 地域における活動 ① イベント名 () ② その他 ()
4 目標 (ねらい)	<ul style="list-style-type: none"> ・運動に主体的に親しむ児童を育てる。 ・スポーツの魅力や可能性に気付かせるとともに、将来の夢をもつことの大切さを理解させる。 ・障害者の方々への理解を深め、共生の心を育てる。
5 取組内容	<p>I スポーツの基礎的技能の向上</p> <p>【いるか教室】(第3学年～第6学年希望者) 水泳が苦手な児童に対して、水遊びからスタートして水に慣れさせ、水に浮いたり潜ったりする楽しさを感じさせる。ビート板を使い少しずつ進む(泳ぐ)感覚を養うようにした。夏季休業中の2日間、23名参加で実施した。</p> <p>【サマースイミング教室】 (第5学年, 第6学年) 水泳オリンピックのコーチである一木氏とその関係者の方々を講師として招き、より速く泳ぐための泳法チェックをしていただいた。</p>  <p>【なわとび練習会・検定】(第1学年～第6学年) 運動委員会が世話役となり、業間時間に体育館を開放し、なわとび練習をできるようにした。なわとび検定カードも配布し、1年生の検定も行った。</p>

【風船バレーで体カアップ】

(特別支援学級)

目と手の協応や運動量の確保のために、手軽に・誰でも・いつでもできる風船バレーを行った。友だちや先生など相手を代えながら毎日続けた。



Ⅱ パラリンピックと障害者スポーツについて理解

【パラリンピアン香西選手って

どんな人だろう?】(第6学年)

パラリンピアンが特別なパワーや能力を持った人ではなく、自分たちと同じように、苦手や困難に立ち向かったり、努力したりしていることを知り、「勇気」「強い意志」について、自分事として考えさせた。



【車いすバスケットボール講座】(第1学年～第6学年)

全日本女子車いすバスケットチームの岩佐ヘッドコーチと、車いすバスケットチーム「宮城マックス」の三浦選手を招いて、車いすバスケットボール講座を実施した。

岩佐ヘッドコーチの講話では、競技用車いすと普通の車いすの違いや、車いすバスケットは障害の重い人も軽い人も一緒にゲームを楽しめるように道具やルールが工夫されていることなど、児童にとって初めて知ることばかりだった。



また、以前は車いすバスケットはあまり知られていなかったが、ようやく認知されてきたこと。そして、もっと車いすバスケットの魅力や選手の凄さを知ってもらいたいとのことだった。

三浦選手のデモンストレーションは、スピード感と迫力がありカッコよく、シュートが決まるたびに大歓声が上がった。



4年生から6年生は、全員が車いすを操作しシュート練習や選手とのミニゲームを体験した。思うように進まなかったり、曲がれなかったり、シュートがバスケットリングに届かなかったりと苦戦し、簡単そうに操作する三浦選手の凄さを実感することができた。

Ⅲ 福祉施設訪問・交流活動

【もっとなかよし町たんけん】

(第2学年)

生活科「地域を知ろう」の学習で、地域内にある特別支援学校の存在に気付かせ、実際に支援学校の児童と



交流する活動を行った。障害のある児童と接することとおして、相手のことを考えて行動すると誰とでも楽しく過ごすことができることを実感できた。

【地域の人たちともっと交流しようⅡ】(第3学年)

地区内にある福祉施設の高齢者と交流する活動を行った。事前に施設の様子や高齢者の方々がやっている活動を知らせ、自分たちにできる交流内容を考えさせた。紙風船バレーやリコーダー演奏など、相手に喜んでもらいたいと準備し、とても喜んでいただいたので子どもたちも満足気だった。



【もうすぐ1年生をおもてなし】(第5学年)

来年度入学してくる保育所年長児を小学校に迎え、小学校入学を楽しみにしてもらおうと企画した。来年度に最上級生となる5年生が小学校のことを知ってもらおうと、学校探検(案内)や外遊び、お絵かきをしたり、給食を一緒に食べたりして交流した。



6 主な成果

I スポーツの基礎的技術の向上

- ・苦手意識があることでも、少しずつでもできるようになると、次の目標をもって頑張ろうとする意欲の高まりが感じられた。
- ・一流のアスリートの方に指導していただくことは、児童にとって貴重な経験となった。技術的なポイントを実践しながら分かりやすく指導していただいたので、児童は自分の技術の高まりが実感でき、同時に指導者の方への憧れにもつながっていった。

II パラリンピックと障害者スポーツについて理解

- ・パラリンピアン香西選手の生き方とおして、障害の有無に関係なく、困難なことに対してすぐにあきらめたりせず、夢をもって努力し続けることの素晴らしさに気付くことができた。
- ・パラリンピックは、障害のある人にとってオリンピックと同等の目標となっていて、そのために努力し続けている姿に、自分も頑張っていこうという気持ちが高まっていた。
- ・車いすバスケットを実際に見て、自分でも体験したことで、難しさを実感するとともに、華麗に車いすやボールを扱っている選手のすごさから、努力して困難を克服しながら人生を豊かに生きることの素晴らしさを感じていた。

III 福祉施設訪問・交流活動

- ・障害のある人、高齢者、幼児など様々な立場の人との交流をおして、相手に楽しんでもらいたい・喜んでもらいたい・そのために自分にできることは何かなど、相手のこと意識した言動を考えたり実行したりすることで、「思いやり」についての考えが深まった。

7実践において工夫した点 (事業の特色)	<ul style="list-style-type: none"> • 上記取組内容の多くは、これまでも本校で行っている活動に、オリンピック・パラリンピック教育の視点を加え、指導する側がそのことを意識的に強調するようにした。このことによって、新しい活動を増やす負担感がなく、これまでより質的に充実した活動になった。
8主な課題等	<ul style="list-style-type: none"> • オリンピアン等の講師依頼が困難。時期的なこと、地理的なこと、旅費や謝金の経費面など様々な制約がある。今回依頼した車いすバスケットの岩佐氏は、全日本女子車いすバスケットチームのヘッドコーチをされており、日程調整や打ち合わせのための連絡がかなり難しかった。
9来年度以降の実施予定	<ul style="list-style-type: none"> • 学校独自で継続していく予定である。